

神戸リハビリテーション病院だより

臨時号 令和3年6月22日 発行

新型コロナウイルス感染対策強化の取り組み

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、当院においても様々な対策を講じてまいりました。残念ながら本年4月に院内にて感染事例が発生しましたが、皆様のご協力の下、感染拡大防止の徹底を図り、5月17日に終息宣言を行うことができました。当院では、今回の事態を受けて院内に感染防止対策チームを立ち上げ、改めて職員一人一人の行動及び院内の施設等を感染防止の観点から見直し、改善を行いました。その主な取り組みをご紹介します。

看護部

看護部では、この度の感染事例発生後、病棟内のゾーニングを行い感染拡大防止を図りつつ、専門チーム（COVIDチーム）が感染防護具（PPE）を装備して看護に当たりました。また、保健所の指導の他、中央市民病院から感染管理認定看護師を招き実地に指導を受け、感染対策強化について検討、改善に取り組みました。

ナースステーション

②

- 室内を清浄に保つため、フェイスシールド置き場(写真①)を室外に設置、各入口に足踏み式消毒液ディスペンサー(写真②)を設置し、入室時に必ず手指消毒を行うようにしました。
- 一処置一消毒を再確認し、ポスターを掲示しました。(写真③)



①



③



④



その他

- 飛沫の拡散防止のため、新たに洗面台の間にもアクリル板(写真④)を設置しました。

病棟食堂

- 飛沫の拡散を防止するため、テーブルのアクリル板は、隣との隙間をふさぎ、隣席との間には新たに仕切り板を設置しました。(写真⑤)

⑤



リハビリテーション部

感染対策のため、昨年から入院と外来を区別し、リハビリスタッフは担当病棟のみを受け持ち、エレベーターの利用は病棟ごとの専用運転とするなど徹底したゾーン設定による感染拡大防止に努めてきました。また、リハビリ室の待合の密の防止など、様々な工夫を行ってきました。

今回さらに、病棟間で感染が拡大することがないように、職員の座席・動線等が入り混じっていたものを病棟ごとに分離しました。また、職員間の感染を防止するため、スタッフルームや訓練室の密の防止、換気の徹底、消毒の徹底等の対策を講じ、ICT（感染対策チーム）委員が定期的に感染対策を点検する仕組みを導入しました。

スタッフルーム

- ・ 室内のレイアウトの変更を行い、病棟ごとに座席を区分し、出入口を病棟ごとに分け、動線を分離しました。
- ・ 常時窓を開け、室内の換気のためにブラインドを撤去し、開閉する窓ガラスへのフィルム貼りを行いました。
- ・ 個人机を廃止し、フリーアドレス（自由席）化を図り、職員同士が密にならないよう距離を保って着席するようにしました。(写真⑥)

⑥



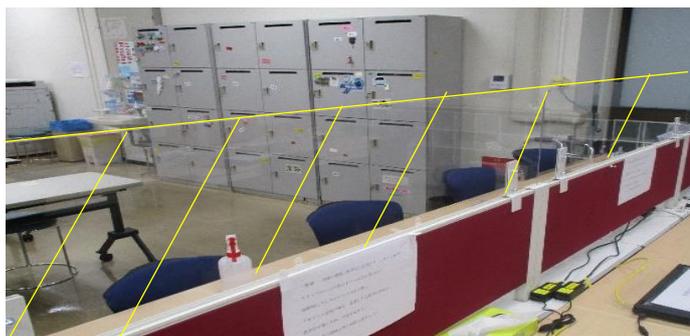
- ・ 室内を清浄に保つため、アイガード置き場を室外に設置(写真⑧) 各入口に足踏み式消毒液ディスペンサーを設置し、入室時に必ず手指消毒を行うようにしました。

⑧



- ・ 飛沫の拡散を防止するため机にアクリル板を設置しました。(写真⑦)

⑦



訓練室

- ・ 訓練室を各階に分け病棟ごとに分かれて使用することにしました。
- ・ 施術ごとに施術用具を消毒し、手指消毒を徹底しました。



4F

2F

まとめ

当院は、患者様が安心して治療を受けていただけるよう、職員一人一人が一層の感染防止の意識を高め、より一層の感染防止に努めてまいります。